

成果報告書

2020 年度

常陸大宮市地域おこし協力隊

松原 功

成果報告書

所 属	地域創生課 地域おこし協力隊	報 告 者	松原 功
活 動 名	くくり罠づくりワークショップ		
背 景	農村、農水産業の衰退に伴う里山の利用低下や捕獲の担い手（狩猟者）の減少と高齢化等が重なり、2000年以降、鳥獣被害に関する法律の制定や改訂が相次いでおこなわれ、鳥獣被害は里山における社会問題のひとつとしてとらえられている。狩猟者は1970年度から6割が減少し、年齢層は60歳以上が6割を超える ¹ 一方で、わな猟免許に関しては所持者が増加傾向にある。		
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ くくり罠を自作することで、狩猟への興味関心をより高める ・ 参加者へは継続して狩猟関係の情報発信と情報交換を行い、地域間交流に繋げる ・ 地元住民や地元猟師とのつながりを深めてもらい、自主的に市内や県内で狩猟をおこなえる人材を増加させる ・ 将来的な、イノシシの個体数と分布域削減 		
概 要	日 時	2020/12/19（日）、2021/1/11（月・祝）13:30～15:30	
	開催場所	山方公民館山方分館	
	参加費	無料 材料費として2,000円徴収	
	参加者	1回あたり5名程度に制限（コロナ禍対応） 【12/19】市内2名、栃木県1名 計3名 【1/11】市内2名、常陸太田市1名、桜川市1名、 千葉県2名 計6名 1/24（日）、2/6（土）は緊急事態宣言発令により中止	
実施内容	① くくり罠づくり体験 基本のくくり罠として「押しバネを利用した、横引きに作動する踏み込み式のくくり罠」を製作、主にホームセンターで購入できる材料を利用（一部特殊な金具類はネット通販） ② くくり罠の基本の使い方 ③ 狩猟で利用する道具の展示 電気銃、トレイルカメラ、止め刺し用ナイフ等を展示		

¹ 参照：環境省 狩猟者・捕獲数等の推移等 <https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs4/>

所 感

お知らせ版掲載等の協力のもと、予定数より多くの申し込み・問い合わせがあったことから、狩猟関連への興味関心が、高まっていると感じた。全体の満足度も高く、狩猟系のワークショップの一つとしての価値は高いと感じられる。一方で、より実践的な、鳥獣の解体や実際に罠をかけるフィールドワークを求める声もあり、より体系的に狩猟を学べるワークショップや講座が必要とされている可能性は高い。狩猟に興味関心がある層に対する手軽なワークショップから実践ステップアップ形式のような狩猟免許保持者を対象とした講座等、それぞれの参加者特性にあった体験を提供できることは、鳥獣被害対策の1つの柱である「捕獲」において有用であると感じる。自身の狩猟に関する知識の不足や地元猟師との連携不足等、対応すべき課題は多いが、退任後の活動でも各所と連携しながら、鳥獣対策の一助となるような取り組みを行っていききたい。

成 果

- ・ 中止になった2回分も合わせると、計20名の申し込みとなった茨城15件（常陸大宮12件、常陸太田1件、日立1件、桜川1件）、東京1件、千葉3件、栃木1件
- ・ 産経新聞に掲載（令和2年12月21日）
- ・ 日本農業新聞に掲載（令和3年1月6日）

参加者へ「くくりわな」作りを手ほどきする松原功さん（左から2人目）＝20日午後、常陸大宮市山方（三浦馨撮影）



害獣駆除へ「くくりわな」講習

常陸大宮市の山方公民館山方分館（同市山方）で20日、イノシシなど害獣を駆除するためのくくりわな作り講習会が開かれた。

同市周辺ではイノシシが人里まで出没。畑や農作物が荒らされる被害が出ている。講習会では同市の地域おこし協力隊員、松原功さん（39）が、イノシシが筒に足を踏み入ると、バネ仕掛けで捕獲するくくりわな作りを

参加者一から手ほどきした。地域では猟銃やわなを使える狩猟者が高齢化、駆除の人手が不足気味だ。わなの使用にも免許が必要だが、松原さんは「一人でも多くの人に興味を持ってもらえたら」と話す。講習会は来年1月11日、24日、2月6日にも行われ、市外の人も参加できる。問い合わせは市地域創生課（02995・52・1111）。

常陸大宮市 一から手ほどき

（読者欄宛敬啓可） 令和3年1月6日（水）日本農業新聞

ストップ！イノシシ害

イノシシの農作物被害を止めるため、茨城県北部に設置する常陸大宮市の山方公民館（39）が12月中旬、同市の山方公民館分館で「くくりわな（わな）作り講習会」を開いた。同講習会では、県内イノシシ被害を減らす中、くくりわなを自作することで、猟師への負担を減らすという狙いがある。松原功さん（39）が、くくりわな作り方を説明している。参加者は、くくりわな作り方を学んだ後、参加者同士で練習した。松原功さん（39）が、くくりわな作り方を説明している。参加者は、くくりわな作り方を学んだ後、参加者同士で練習した。

茨城県常陸大宮市 協力隊員・松原功さん

今年、同市内で被害の発生が相次ぎ、くくりわな作り講習会を開催する。同講習会には、松原功さん（39）が、くくりわな作り方を説明している。参加者は、くくりわな作り方を学んだ後、参加者同士で練習した。

くくりわな作り方学ぼう

約40人の参加者で、くくりわな作り方を学んだ。参加者は、くくりわな作り方を学んだ後、参加者同士で練習した。

成果報告書

所 属	地域創生課 地域おこし協力隊	報 告 者	松原 功
活 動 名	森林ふれあい体験会		
背 景	日本は国土の約7割を森林が占める森林大国で、森林のうち約4割がスギやヒノキ等の人工林である。林業従事者の減少、コストに見合わない林業経営により、手つかずの森林が増加している一方で、森林に新たな価値を生み出す「森林サービス産業 ¹ 」が林野庁によりすすめられている。		
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の中で味わう非日常の体験で森林に親しみを持ってもらう ・ 楽しみながら森林の手入れをおこない、森林の課題が見える化 ・ 参加者同士が汗をかきながら行う皮むき間伐を通して、森林とのかかわりを深める経験を届ける ・ 森林とのかかわり方のハードルを下げ、友人や家族を連れてきたいと思える場所として森林を認識してもらう 		
概 要	日 時	2020年8/9(日)、8/22(土) 13:30~16:00	
	開催場所	鶯子地内の森林	
	参加費	無料	
	参加者	県内在住で1回あたり5名程度に制限 (コロナ禍対応) 【8/9】 市内3名(内小学生1名)、鹿嶋市2名 計5名 【8/22】 北茨城市1名、常陸太田市1名、那珂市1名、 桜川市1名、稲敷市1名 計5名	
実施内容	① 日本の森林について学びを深める 小冊子作成と動画(林野庁作成『木を使って森を活かそう』)で森林の現状や活動への想いを共有 ② 皮むき間伐の体験 夏場(5月~8月)にスギやヒノキの樹皮(表皮から形成層の部分)だけを剥ぎ、1年間切倒さず、立ったままゆっくりと枯らす間伐手法		

¹ 山村の活性化に向けた「関係人口」の創出・拡大のため、森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する新たなサービス産業

参加者の声

森林について考えるきっかけを具体的な体験イベントを通して頂けたことは良かった。目標の本数もみんなの力で無理なく達成できて良かった。主催者の奥に秘めた熱意が伝わってきて、森林のことを学び、木との暮らしを楽しんでみたいと思った。作業が終わった後のかき氷や駅長さんのメッセージとお土産も嬉しかった。常陸大宮の方々の心の暖かさを感じた。

成果

- ・ 2日間で20本のヒノキを間伐
- ・ 1日当たりの参加者2.5倍増（昨年度比）
- ・ 1日当たりの間伐本数1.7倍増（昨年度比）
- ・ 市広報誌で皮むき間伐の特集が組まれる
- ・ 茨城新聞に掲載（令和2年8月12日）
- ・ ラジオ出演（茨城放送）



参考



3年間の活動記録

2018年度～2020年度

常陸大宮市地域おこし協力隊

松原 功

目次

P1 活動のコンセプト

P2 取り組み①森林活用

取り組みの着地点

P3 森林を起点とした場づくり

50年～100年先を見据える森づくり

P4 木材の価値を高める製品づくり

森林づくりのイメージ

P5 1年目（2018年度）の森林づくり

①「皮むき間伐」実施に向けた準備 □皮むき間伐とは？

P6 ①「皮むき間伐」実施に向けた準備 □皮むき間伐のメリット

①「皮むき間伐」実施に向けた準備 □皮むき間伐のデメリット

P7 ②山方林業研究会の活動に参加

②山方林業研究会の活動に参加 ～活動写真～

P8 ③林業支援講習会に参加

③林業支援講習会に参加 ～活動写真～

P9 2年目（2019年度）の森林づくり

①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～概要～

P10 ①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～

①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～

目次

- P11 ①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～
②選木、伐採、搬出等の森林内作業
- P12 ③皮むきした杉の水分量の測定
④伐採した木材の製材
- P13 ⑤その他の森林づくり関係の活動
- P14 3年目（2020年度）のづくり
①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～概要とデータ～
- P15 ①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 □参加者の声
①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～
- P16 ①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～
①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～活動写真～
- P17 ①森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ～広報誌・メディア～
②杉を利用した木工講座受講 ～概要～
- P18 ②杉を利用した木工講座受講 ～活動写真～
③漆について学ぶオンラインイベント開催
- P19 取り組み②狩猟
取り組みの着地点
- P20 野生動物や鳥獣被害の関心を高める
狩猟スタイル

目次

P21 1年目（2018年度）の狩猟

①箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の製作

P22 ②イノシシ捕獲と解体

③イノシシ毛皮なめし

P23 2年目（2019年度）の狩猟

①鳥獣被害対策研修

P24 ②イノシシ捕獲と解体 ～概要～

②イノシシ捕獲と解体 □確認できたこと

P25 ③くくり罟づくりワークショップ ～概要～

③くくり罟づくりワークショップ ～活動写真～

P26 ③くくり罟づくりワークショップ ～活動写真～

④箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の改良

P27 ⑤頭蓋骨標本の製作

P28 3年目（2020年度）の狩猟

①くくり罟づくりワークショップ ～概要～

P29 ①くくり罟づくりワークショップ □ワークショップを通じて

②鳥獣管理士3級認定

目次

- P30 取り組み③地域活動
- 1年目（2018年度）の地域活動
- ～長倉七夕まつりとやまがた宿芋煮会～
- P31 1年目（2018年度）の地域活動 ～活動写真～
- 1年目（2018年度）の地域活動 ～活動写真～
- P32 1年目（2018年度）の地域活動 ～活動写真～
- P33 2年目（2019年度）の地域活動
- ～長倉七夕まつりと西塩子の回り舞台～
- 2年目（2019年度）の地域活動
- ～鷲子山上神社祇園祭とやまがた宿芋煮会～
- P34 2年目（2019年度）の地域活動 ～活動写真～
- 2年目（2019年度）の地域活動 ～活動写真～
- P35 2年目（2019年度）の地域活動 ～活動写真～
- P36 3年目（2020年度）の地域活動
- ～地域コーディネーター研修と他地域との連携～
- 3年目（2020年度）の地域活動 ～活動写真～
- P37 3年目（2020年度）の地域活動 ～活動写真～
- 3年目（2020年度）の地域活動 ～活動写真～
- P38 退任後について

❖ 活動のコンセプト ❖

私の活動に興味をもった人が常陸大宮市に来る



来た人が常陸大宮市を知る

取り組み①
森林活用

取り組み②
狩猟

取り組み③
地域活動

今後について

取り組み① 森林活用

取り組み①
森林活用

取り組み②
狩猟

取り組み③
地域活動

今後について

❖ 取り組みの着地点 ❖

- ① 森林を起点とした様々な人が来られる場づくり
- ② 50年～100年先を見据える森づくり
- ③ 木材の価値を高める製品づくり

❖ ① 森林を起点とした場づくり ❖

- ・ 森林は十人十色の活かし方ができる
- ・ 実際の森林に入れば様々なアイデア生まれる

森林を「場」として利用する。そのために…

人々に森林をより身近に感じてもらう必要あり
森林に気軽に来られる仕組みづくり

❖ ② 50年～100年先を見据える森づくり ❖

- ・ 「森づくり」は長期の視点を持つ必要あり

どんな森林にしたいのか…

針・広葉樹を含めた植生の多様性（混交林）

人と動植物にとっての豊かな自然環境

子や孫の代にも山地の暮らしの良さを伝えていく

❖ ③ 木材の価値を高める製品づくり ❖

- ・ 「モノ」 + 「物語」 の製品づくり
- ・ とともに汗を流した森林の木材を提供

製品の先には…

木を身近に感じる、木でつくる生活を営む
持続可能な森をつくっていく

❖ 森林づくりのイメージ ❖

森林づくり ≠ 林業 ⇒ 木材生産も大事な1分野
総合的・複合的な森林の利用が求められる時代

森林空間 × ○○ × 常陸大宮

○○には以下のような言葉が入ります！

教育・学び・交流・遊び・環境・アウトドア・スポーツ・地域・文化・資源・ふれあい・テレワーク・ワーケーション等

❖ 1年目（2018年度）の森林づくり ❖

① 「皮むき間伐」実施に向けた準備

- ✓ 植生調査・樹木データ計測と集計実施
- ✓ 育成木の選木を実施

② 林業支援講習会に参加

③ 山方林業研究会の活動に参加

❖ ① 「皮むき間伐」実施に向けた準備 ❖

□ 皮むき間伐とは？

夏場（5月～8月）にスギやヒノキの樹皮（表皮から形成層の部分）だけを剥ぎ、1年間切倒さず、立ったままゆっくりと枯らす間伐手法。

シニア・女性・子供でも実施できる長期的な森づくりを考えた一つの手段で、森林と触れ合うことができる。

❖ ① 「皮むき間伐」 実施に向けた準備 ❖

□ 皮むき間伐のメリット

- ・ 低コストで誰もが実施可能な間伐手法
- ・ 杉や檜の樹皮（表皮から形成層）だけを剥く
- ・ 1年間切り倒さずに立ったまま枯らす
- ・ 水分が抜け、木々が軽くなる
- ・ 伐採や搬出の負荷が少なく作業可能
- ・ 天然乾燥が同時におこなえる

❖ ① 「皮むき間伐」 実施に向けた準備 ❖

□ 皮むき間伐のデメリット

- ・ 大型重機を利用しないため、効率が悪い
- ・ 最低1年間は伐らずに乾燥するため、伐採までに時間がかかる
- ・ 倒木の可能性もあるため、伐採は必須
- ・ 人が森林に入ることにより、土壌が踏み固められ、土地に悪影響が出る可能性もあるため、場所によっては森林の手入れより土地改良を優先

❖ ② 山方林業研究会の活動に参加 ❖

- ・ 炭焼き
- ・ きのこ類の殺菌植菌作業
- ・ 原木搬出 等

森林や木々のこと等知識豊富な方々と作業することは非常に有益な時間となりました。

❖ ② 山方林業研究会の活動に参加 ❖

研究会の方々と



❖ ③ 林業支援講習会に参加 ❖

- ・ 林業就業に係る基本的な知識の習得
- ・ チェーンソー、刈払機資格取得
- ・ 救命措置、安全衛生講習
- ・ 林業作業の実地講習
- ・ 小型車両系建設機械運転業務講習（3t未満）等

森林に関する知識やスキルアップができました。

❖ ③ 林業支援講習会に参加 ❖

講習会の仲間と



❖2年目（2019年度）の森林づくり❖

- ❶ 森林ふれあい体験会の実施(全3回開催、5月～8月)
- ❷ 選木、伐採、搬出等の森林内作業
- ❸ 皮むきした杉の水分量の測定
- ❹ 伐採した木材の製材
- ❺ その他の森林づくり関係の活動

❖❶ 森林ふれあい体験会の実施@鷺子❖

- ・ 森林の話、皮むき間伐体験、ウッドコースターづくり体験
- ・ 3日間で計18本の檜の皮を剥く（6名参加）

□ **良い点**：体験が楽しい・またやりたいの声が多かった、森林の新たな価値を創出し、その価値を高めることにつながった（一般参加者有料）、けが人なし。

□ **改善点**：参加者0人のため開催できない日程があり、開催場所、時期、時間帯、集客方法等で改善の必要性を感じた。

❖ ① 森林ふれあい体験会の実施 @ 鷺子 ❖

皮むき
間伐の様子



❖ ① 森林ふれあい体験会の実施 @ 鷺子 ❖

他地域の
協力隊も
参加



❖ ① 森林ふれあい体験会の実施 @ 鷺子 ❖

木製
コースター



❖ ② 選木、伐採、搬出等の森林内作業 ❖

- ・ 初年度（2018年度）に皮むきした杉の伐採、搬出作業を実施
- ・ 2mの丸太が大小含めて26本（末口直径10cm～22cm）



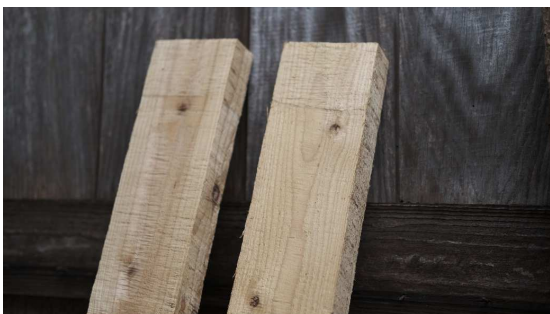
❖ ③ 皮むきした杉の水分量の測定 ❖

- ・皮むき後、約1年で木材内の水分が30%以下になる。（写真左）
※通常の生木では70%近く水分が含む（写真右）
- ・木材自体の重さが軽くなり、伐採、搬出、加工で利点がある。



❖ ④ 伐採した木材の製材 ❖

- ・チェーンソー簡易製材機での製材
- ・表面は切りっぱなしなので自動カンナ等で加工が必要



❖ ⑤ その他の森林づくり関係の活動 ❖

- ・ 鷺子で行われた植樹祭（4月）
- ・ 尺丈山の森づくりボランティア（6月）
- ・ 山方林業研究会の炭焼き、マイタケ殺菌植菌作業に参加
- ・ ローカルベンチャーで有名な岡山県西粟倉村の視察（6月）
- ・ 北海道で行われた若手林業サミット参加（9月）

❖ 3年目（2020年度）のづくり ❖

- ❶ 森林ふれあい体験会の実施（全2回開催、8月）
- ❷ 杉を利用した木工講座受講
- ❸ 常陸大宮特産品の漆について学ぶオンラインイベント開催

❖ ❶ 森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ❖

- ・ 森林について話と皮むき間伐体験を実施、2日間開催
- ・ 1日当たりの参加者2.5倍増（昨年度比）
- ・ 1日当たりの間伐本数1.7倍増（昨年度比）

❖ ① 森林ふれあい体験会の実施 @ 鷺子 ❖

□ 参加者の声

森林について考えるきっかけを具体的な体験イベントを通して頂けたことは良かった。

目標の本数もみんなの力で無理なく達成できて良かった。主催者の奥に秘めた熱意が伝わってきて、森林のことを学び、木との暮らしを楽しんでみたいと思った。

作業が終わった後のかき氷や駅長さんのメッセージとお土産も嬉しかった。常陸大宮の方々の心の暖かさを感じた。

❖ ① 森林ふれあい体験会の実施 @ 鷺子 ❖

夫婦で
間伐



取り組み①

森林活用

取り組み②

狩猟

取り組み③

地域活動

今後について

❖ ① 森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ❖

お子様も間伐



取り組み①

森林活用

取り組み②

狩猟

取り組み③

地域活動

今後について

❖ ① 森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ❖

多くの方が森林に



❖ ① 森林ふれあい体験会の実施@鷺子 ❖

市広報誌、茨城新聞・茨城放送にとりあげていただきました！



❖ ② 杉を利用した木工講座受講 ❖

- ・家具等には不向きといわれている針葉樹（スギ・ヒノキ）を使った、木工技術を取得中。スツール（椅子）を製作しました。
- ・小規模な加工場をつくり、木工品製作をおこないます。



❖ ② 杉を利用した木工講座受講 ❖

スタッキングツール



❖ ③ 漆について学ぶオンラインイベント開催 ❖

- ・常陸大宮市の名産品である漆に関してのかかわり方や百姓的な生き方を令和の時代に実践するには？というテーマで参加者の方々と議論。
- ・ゲストとして、やまがた漆ソサエティ代表 菊池三千春氏



取り組み①
森林活用

取り組み②
狩猟

取り組み③
地域活動

今後について

取り組み② 狩猟

取り組み①
森林活用

取り組み②
狩猟

取り組み③
地域活動

今後について

❖ 取り組みの着地点 ❖

① 野生動物や鳥獣被害に興味がある人を増やす

❖ ①野生動物や鳥獣被害の関心を高める ❖

- ・都市部でも鳥獣に生活が脅かされる可能性あり
- ・主流の知識や対策のセオリーを身につける

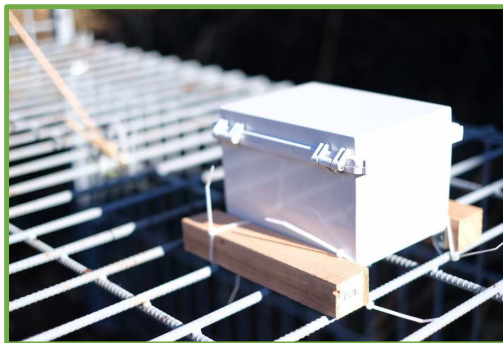
興味関心が高まるほど…

野生動物を通じた地域内外の交流
人間と鳥獣の双方が暮らしやすい地域

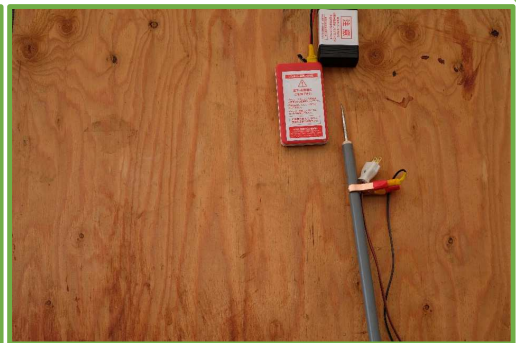
❖ 狩猟スタイル ❖



箱わな



IoT装置



電気銃

❖ 1年目（2018年度）の狩猟 ❖

- ❶ 箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の製作
- ❷ イノシシ捕獲と解体
- ❸ イノシシ毛皮なめし

❖ ❶ 箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の製作 ❖

- ・ IoTとはInternet of Thingsの略称
- ・ 電子工作やプログラミングを利用
- ・ センサーでイノシシを感知し、扉が落下
- ・ わな内部の仕掛け不要
- ・ 技術面の簡易化
- ・ 携帯電話等に通知も可能予定（ほぼ完成）

❖ ② イノシシ捕獲と解体 ❖

- ・初年度は総稼働日数28日でイノシシ♀1頭（約10kg）を捕獲。
- ・放射性物質検査は検出なし。



❖ ③ イノシシ毛皮なめし ❖

- ・剥皮後、ミョウバンと塩を内側に塗り込むことで、イノシシ皮を革にしました。
- ・皮なめしには、上記の方法以外に、ミョウバンの液体に漬け込む方法があります。



❖2年目（2019年度）の狩猟❖

- ❶ 鳥獣被害対策研修（全3回受講、10月～12月）
- ❷ イノシシ捕獲と解体（12月と3月）
- ❸ くくり罠づくりワークショップ（2回開催、2月と3月）
- ❹ 箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の改良
- ❺ 頭蓋骨標本の製作

❖❶ 鳥獣被害対策研修❖

・鳥獣害対策の基本、被害を防ぐための防護に関する知識、鳥獣害を減少させるための捕獲に関しての基礎知識、実際の防護柵の張り方やくくりわなの設置に関して学ぶ。



❖ ② イノシシ捕獲と解体 ❖

- ・12月に1頭(46kg♂)、3月に1頭(74kg♂)の計2頭
- ・箱わな、IoT装置、電気止め刺し器、トレイルカメラ使用



❖ ② イノシシ捕獲と解体 ❖

□ 昨年年度からの改良点と確認できたこと

- ・ 捕獲～解体までの流れを書面で作成し、効率化
- ・ 解体時の吊るし台作製し、表皮剥ぎの時間短縮化
- ・ 箱わなの底の網目を土で覆わなくても、わな内部に侵入する
- ・ セオリー通りに米ぬかを散布し、警戒心を解く
- ・ 電気止め刺しは大型のイノシシでも効果的
- ・ ナイフはしっかり研ぐこと⇒剥皮、精肉の時間短縮になる

❖ ③ くくり罟づくりワークショップ ❖

- ・目的は、狩猟への興味関心をより高めることと、狩猟関係の情報発信と情報交換を行い、地域間交流などに繋げること
- ・2月は5名、3月は4名(各回定員5名)で東京、茨城、栃木、福島からの参加、免許は持っていないが関心がある方も参加
- ・総合的な満足度が高く、また参加したいとの声が多かった
- ・地元猟師の協力を得て、より地域に根ざした交流をはかれるようにしていきたい

❖ ③ くくり罟づくりワークショップ ❖

参加者の皆さんと



❖ ③ くくり罫づくりワークショップ ❖

ワークショップの様子



❖ ④ 箱わな用IoTイノシシ捕獲装置の改良 ❖

- ・初年度は動力部分と通信部分を同一システムに組み込んだため、電力の消費が激しく誤作動もあり
⇒各部分をわけ、より低コストで使用できるように変更中
- ・多くの方が使用できるようにした場合は、電力と操作性のバランス調整が難しい
- ・動力部分に関しては実用レベルになった
⇒餌付けができれば捕獲率100%

❖ ⑤ 頭蓋骨標本の製作 ❖

- ・ 頭蓋骨は標本づくりの方法は、以前とは異なる地中に埋め、土壌の分解者を利用した。以前は煮る方法をとった。
- ・ 地中に埋めるだけなので、比較して簡易的。



❖3年目（2020年度）の狩猟❖

- ❶くくり罫づくりワークショップ（2回開催、12月、1月）
- ❷鳥獣管理士3級認定

❖❶くくり罫づくりワークショップ❖

- ・全4回予定で2回実施。20名の申し込み（各日5名定員）と問い合わせ多数。
- ・茨城15件（常陸大宮12件、常陸太田1件、日立1件、桜川1件）東京1件 千葉3件 栃木1件の申し込み、免許は持っていないが関心がある方も参加。
- ・農業新聞にも取り上げていただきました！（令和3年1月6日付）

❖ ① くくり罠づくりワークショップ ❖

□ワークショップを通じて
 全体の満足度も高く、狩猟系のワークショップの一つとしての価値は高い。
 一方で、より実践的な、鳥獣の解体や実際に罠をかけるフィールドワークを求める声もあり、より体系的に狩猟を学べるワークショップや講座が必要だと感じた。



❖ ② 鳥獣管理士3級認定 ❖

- ・「鳥獣管理士」とは、「農作物被害、生態系被害、生活安全など、人と野生鳥獣の軋轢に関する地域課題の解決を担う人材の技術的能力を認証すること」を目的とした、一般社団法人鳥獣管理技術協会が認定している資格制度。
- ・鳥獣被害に対する最低限の知識は身に着け、良き学びとなりました。1級まであるので、引き続き、学びを深め、市内の鳥獣被害対策のサポートができるようになりたいです。

取り組み③ 地域活動

❖1年目（2018年度）の地域活動❖

□長倉七夕まつり

竹飾りの取り付けや会場設営を含む祭りの準備や国際ワークキャンプのボランティア受け入れのサポートに携わりました。

□やまがた宿芋煮会

「まるSUN農園（里芋農家）」で里芋堀りと里芋洗い等サポート、「山方農産加工研究会」の出店・販売サポートに携わりました。

❖1年目（2018年度）の地域活動❖

ボランティアとの作業



❖1年目（2018年度）の地域活動❖

里芋掘りの様子



❖1年目（2018年度）の地域活動❖

加工研究会の皆さんと



❖2年目（2019年度）の地域活動❖

□長倉七夕まつり

元隊員の松原枝里さんが国内外からボランティアを募り、七夕まつりのサポートをしました。海外勢3名・国内勢5名の計8名が参加。5日間、自宅でボランティアを受け入れ、寝食を共にしました。

□西塩子の回り舞台

竹の切り出し、組み立て、情報発信等の準備に参加。

❖2年目（2019年度）の地域活動❖

□鷲子山上神社祇園祭

鳥居土組として参加。朝はお神輿を担ぎ、午後からは屋台を引きました。

□やまがた宿芋煮会では台風で中止になりながらも、サトイモ農家をサポート。

取り組み①

森林活用

取り組み②

狩猟

取り組み③

地域活動

今後について

❖2年目（2019年度）の地域活動❖

長倉七夕まつり



取り組み①

森林活用

取り組み②

狩猟

取り組み③

地域活動

今後について

❖2年目（2019年度）の地域活動❖

西塩子の回り舞台



❖2年目（2019年度）の地域活動❖

鳥居土組の屋台

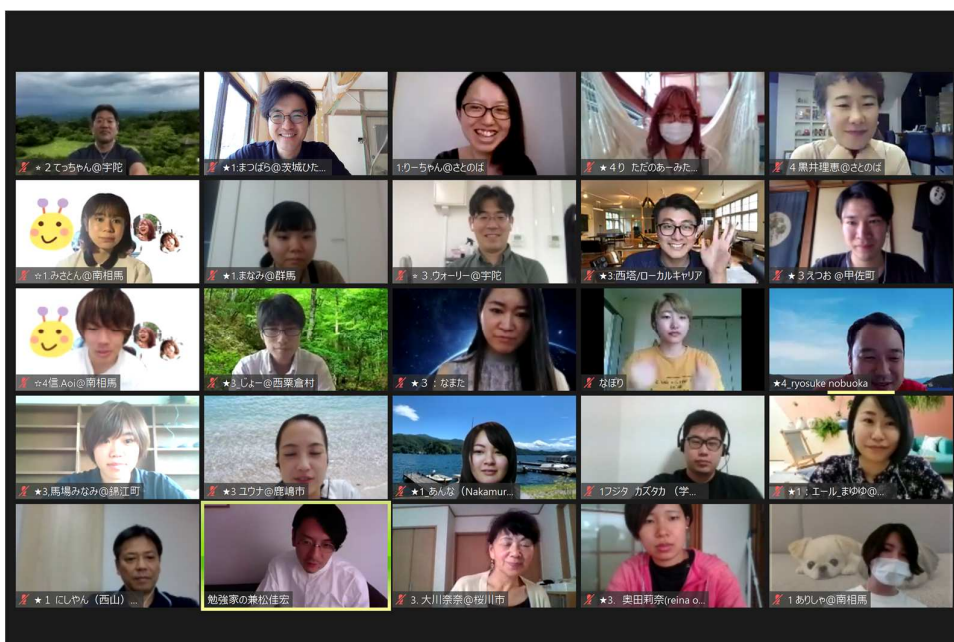


❖3年目（2020年度）の地域活動❖

- ・地域コーディネーター研修（さとのば大学）
⇒地域が求めること、自分ができること、自分のやりたいこと等を改めて棚卸ができる学びの時間が持てました。
- ・他地域の地域おこし協力隊と連携
⇒オンライン上での合同移住相談会やアート関係プロジェクト等といった活動を通して、広域連携の重要性を認識できました。

❖3年目（2020年度）の地域活動❖

「さとのば大学」学びの仲間



❖3年目（2020年度）の地域活動❖

オンライン
移住相談



❖3年目（2020年度）の地域活動❖

移住相談会の運営メンバーと



❖ 退任後について ❖

- ・ 市内に定住をし、働きながら、森林や狩猟に関する活動をできる範囲で継続。
- ・ 常陸大宮の暮らしや人々の活動を情報として発信しながら、できれば移住してくれる人が増えるといいと考えています。